

和歌山県立博物館評価(平成30年度事業評価用)

博物館長による評価	評判のよい展覧会だけでなく、全般的に入館者数が微増傾向にあるのは、当館に対する一定の評価が確立されつつあることの反映とみられる。しかし各学芸員の担当範囲はかなり広く、人員の補充により遅れている分野(たとえば考古)をカバーする必要がある、将来的には学芸庶務のポストも考えに入れるべきだろう。自然災害や盗難などに対する施策は全国的にみてもトップレベルであるが、次の段階として、緊急避難時の対応を含めた博物館の収蔵能力につき取り組む時期に来ている。展覧会のPRのために、メディアを活用する可能性を検討することが望まれる。
評価部会による評価	展示をはじめとする学芸員は、一定の水準を確保し、掲げた目標に照らして成果を上げている。その上で、学芸員はニーズに合わせて幅広い分野を分担しているが、なお不足しているジャンルがあり、展示、資料収集、教育普及の充実のため、学芸員の増員が必要であろう。学芸員はフル回転しているが、調査や研究のための時間を確保しないと、かえって各事業・企画の質を低下させることが危惧される。平成26年度より実施したこの評価方式によって問題点・課題を指摘することができたが、今後さらに重点目標に対する評価により、改善を図る工夫が必要であろう。

平成30年度 和歌山県立博物館評価様式

1. 資料収集・管理

博物館長による所見	県内資料の購入・寄託とも積極的に行っており評価できる。ただし収蔵庫の収蔵率が高いので、非活用資料の返却を含めて寄託方針の改定を視野に入れておく必要があるだろう。災害時の緊急避難のことも考えると、収蔵庫には常に一定の残存率を確保しておくことが望ましい。
評価部会による所見	残り収蔵スペースのことを考えて、寄託の基準や条件をより明らかにしておく必要がある。収蔵のあり方、とくに活用の可能性の低い個人所蔵資料の取扱いについては、引き続き検討を重ねてほしい。

①資料収集

A. 資料収集方針に沿った資料の収集が行われたか。収集手続きは適正か。(1)

平成30年度目標	資料収集方針に沿って、適正に資料を収集する。美術資料選定委員会を1回開催する。防犯・防災上の大規模受託についてのシミュレーションを行う。
自己評価	購入資料については、2月27日に美術資料選定委員会を開き、資料収集方針に沿って購入資料の選定を行った(30年度計8,077,200円)。資料の受贈及び受託についても、資料収集方針に沿って、担当学芸員が過去の実績や現況もふまえながら、慎重に判断して行っている。
課題・改善案	収蔵庫前室・搬出入室を想定した大規模受託のシミュレーションを検討中である。

B. 新規購入・受贈・受託数は何件・何点か。(2)

平成30年度目標	年度末に新規購入・受贈・寄託件数・点数を把握する。活用することのない寄託資料について、返却の可能性を含めて、方向性を整理する。
自己評価	購入資料7件7点、受贈資料10件268点、新規受託資料91件778点。寄託資料のうち、地元収蔵環境の改善により、112件597点の資料を返却、また3件3点を購入した。
課題・改善案	現在構想中の収蔵棚・棚板の増設について、予算要求に必要な計画概要の策定を急ぐ必要がある。活用の可能性のない個人所蔵の寄託資料については、寄託更新時に返却という選択肢を提示する必要がある。

②資料保存

A. 資料の保存環境は適切か。資料の点検調査を行ったか。(3)

平成30年度目標	IPMの手法による資料の適切な保存環境を維持する。IPM手法・春秋期の空調機間欠運転の検討を行う。館蔵品の在庫チェックを行う。収蔵庫別に、残り収蔵容量の把握を正確に行うとともに、容量確保のための方法を検討する。
自己評価	従来通りの空調システムやIPMの手法を維持している。館蔵品の在庫チェックとともに、台帳・カードの手入れを行った。収蔵庫の収蔵率は、全体として85～90%程度。
課題・改善案	日常的な清掃やデータログによる温湿度チェックを引き続き行い、収蔵庫内の点検を励行する。収蔵庫・写場など、資料保存に関わるエリアのLED照明化への中長期的な計画を策定する。

B. 資料の修復を行ったか。その手法は適切だったか。(4)

平成30年度目標	館蔵品を中心に、適切な資料の修復を行う。館蔵品・寄託品のうち、優先的に修理すべき資料のリストを作成して計画的に実施する。
自己評価	近年収集した館蔵品5件及び展示に必要な寄託品1件の修復を行った。
課題・改善案	修理計画を策定するための、館蔵品の現時点でのコンディションチェックを順次進めていく必要がある。

③資料管理

A. 収蔵点数は何件・何点か。資料の管理方法(台帳、データベース)は適切か。(5)

平成30年度目標	収蔵資料全体の件数・点数を把握し、年度末に集計する。預かり証書の更新作業を行う。館蔵品・寄託品データベースの整序を行う。
自己評価	館蔵品は1,100件23,835点、寄託品は2,540件15,594点。預かり証書の更新を年度当初に行った。
課題・改善案	データベースの維持を行うとともに、ネットワーク環境において安全で管理しやすい構造になるように検討する。寄託品・館蔵品のそれぞれのデータベースが整合的になるように整備する。

④資料の活用

A. 他機関へ資料を貸出ししているか。(6)

平成30年度目標	適切な管理・輸送が可能な博物館施設へ資料を貸出する。貸出基準の要件を検討・整理し、ホームページ上で公開する。
自己評価	14機関に43件239点の資料を貸し出した。
課題・改善案	貸出基準の要件を検討・整理・策定し、ホームページ上で公開する。

B. 図書資料を収集し、研究や閲覧に供しているか。(7)

平成30年度目標	必要な図書資料を購入・受贈によって収集し、活用する。継続的な整理・データ化につとめる。
自己評価	1,335点の図書資料を収集し、図書データベースに入力した。
課題・改善案	図書データの入力・配架・公開作業を効率的に行えるように、作業の工程を検討する。

C. 資料のデータを公開しているか。(8)

平成30年度目標	最新の情報により、館藏品リストを当館ホームページ上で公開する。画像のホームページ上での公開について、その方針を検討する。
自己評価	リスト形式でホームページ上に掲載している。
課題・改善案	画像のホームページ上での公開について、その方針を検討する。

2. 調査・研究

博物館長による所見	学芸員各位の自発的な調査は顕著な成果を上げており、その成果の発表の場は、展覧会や紀要執筆だけでなく、学会発表などを目指してもよいと思う。文化遺産課とのさらに密接な連絡・共同作業が望まれる。科学研究費補助金の申請に当たり有効なテーマを考えてほしい。館藏品・寄託品の解説をHP上に掲載することを検討してもよい。災害時に備えた調査研究が継続的に行われているのは評価できる。
評価部会による所見	学芸員個人の調査・研究は必要な水準が維持されているが、近現代の部分が不足している。調査成果のデータ化を進め、ホームページ上でもその内容が公開できるような方向性を検討すべき。館の活動方針に沿い、展示を発展させる研究ができるように、科研費の獲得をめざすことが望ましい。獲得した科研費や共同研究のテーマは、ホームページ上で公開すべきである。

①調査

A. 調査件数。使命に基づいた調査研究を行っているか。(9)

平成30年度目標	使命に基づいた調査研究を行う。調査実績の把握・整理を行う。文化財所有者・市町村文化財担当者からの調査依頼には積極的に対応する。
自己評価	購入・研究・展示のため、また県民等からの依頼を受けて、和歌山県ゆかりの文化財について119件の調査を行った。
課題・改善案	調査内容のデータ化・共有化が十分にできていないので、そのための方式を確立する必要がある。

B. 外部機関・団体と共同した研究を行ったか。(10)

平成30年度目標	共同調査を行う。文化財の防災・防犯・保全などに関する調査は、積極的に柔軟性を持って関与する。
自己評価	合計7機関(県文化遺産課・県立文書館、東京大学史料編纂所、神奈川大学、東京文化財研究所、大阪芸術大学、和歌山市文化振興課)とともに、7件の共同研究を行った。
課題・改善案	引き続き、共同研究の一員として活動することを継続する。和歌山県ゆかりの文化財については、緊急の事態に備えて、臨機応変に対応できるようにする。

② 研究成果の活用

A. 館の展示・教育普及活動等に成果が反映されているか。(11)

平成30年度目標	研究の成果を博物館の事業(展示・収集等)に反映させる。調査の成果であることを様々な機会アピールする。調査概要の記録を、持続可能な形で集積できる方法を確立する。
自己評価	研究の成果は、特別展・企画展などの展示活動や資料の収集活動に反映させている。

課題・改善案	各活動が研究の成果によるものであることを十分にアピールできていない傾向があるので、広報活動等を活用してより明示する必要がある。
--------	---

B. 学術的公表(館研究紀要・報告書・学会誌等)がなされているか。(12)

平成30年度目標	様々な機会を利用して、学術的公表(当館研究紀要・報告書・学会誌等)を行う。公表の実績を記録・整理して公開できるようにする。
自己評価	『研究紀要』25号を発行した。また、特別展・企画展の展示活動や博物館講座や展示解説において、調査研究の結果を公開している。
課題・改善案	館外の専門的な媒体においても、研究の成果について公表することは可能であり、またその実績も記録されるべきである。

3. 展示

博物館長による所見	継続的にやっている特別展・企画展は、県民の要望をよく反映しているように思われる。子ども用キャプションが分かりやすいと好評なので、あまりキャプション過多にならないでいどに今の状態を維持すべきである。観覧者の館内撮影はそのプラス面・マイナス面をよく検討して今後の方針を出す。
評価部会による所見	年間の展示回数や会期・企画の主体の吟味などを行い、余力を生み出すことも検討すべきである。肩肘張った展示だけでなく、遊び心のあるようなテーマも時には必要であろう。展示室内の撮影を原則許可した点は、「かんたん解説」キャプションとともに、資料と観覧者との距離を縮め、親しみを生み出す試みとして評価できる。長期的には、小・中学生向け常設コーナーを設置することも考慮されたい。

① 常設展

A. 展示更新回数。計画的な展示替が行われているか。計画的な保守・管理が行われているか。(13)

平成30年度目標	実物資料については2回、展示資料の劣化防止につとめる。レプリカ・模型・パネル類の劣化・破損状況を把握・整理する。外国語表示をより充実させる。映像装置・扉類・展示補助器具を中心に、計画的な保守・管理を行う。電動ガラス扉の修繕を行う。
自己評価	脆弱な実物資料については、秋季特別展の前後で展示替えを行った。常設展展示ケースの電動ガラス扉の修繕を行うとともに、エアタイト性能を維持するために、モールの交換作業を行った。映像系の展示解説装置は、秋季特別展の展示替え作業中にメンテナンスを行った。
課題・改善案	一部稼働しているが、携帯端末を利用した解説システムを利用できるように整備する。レプリカ・模型・パネル類更新のための準備作業を行う。

② 特別展・企画展

A. 展覧会のコンセプト・構成・展示手法は妥当か。展示物・来館者の安全は確保したか。(14)

平成30年度目標	来館者の要望や地域バランスも参考にしながら、当館の使命によるコンセプトに基づいて展覧会を開催する。特別展は、「紀伊徳川家 やきもの新時代」と「西行(大規模展)」の2本を行う。地震に対する展示資料・来館者の安全確保について、引き続き検討する。親しみやすいテーマの展示を含めることも必要。
自己評価	特別展2本と企画展6本を開催したが、いずれも和歌山県の歴史・文化財に関わるテーマとした。企画展のうち2本は、若年層を意識した展示であり、またすべての展示において「かんたん解説」キャプション・音声ガイドを制作した。なお、一部の展示については、資料所有者の承諾を事前に得て、会場内での写真撮影を許可した。
課題・改善案	引き続き、アンケート調査等に見える来館者の要望・県民の趣向と、資料の残存状況・調査研究の進捗等をふまえながら、展覧会の計画を策定する必要がある。

B. 図録・パンフレット等を制作したか。(15)

平成30年度目標	特別展(2本)について、それぞれ図録を制作する。展覧会終了後も、継続して閲覧・入手しやすい状況を維持する。
自己評価	2本の特別展については、それぞれ図録を制作・発行した。館内で販売したほか、県内の図書館をはじめ、各地の図書館・博物館等に寄贈した。
課題・改善案	一部の企画展でも、図録や小冊子を発行できるような方策を検討する。

③ 館内小展示・出前展示

A. 何回企画を実施したか。要望はあったか。(16)

平成30年度目標	館内小展示(コーナー展示・特集展示等)を2回程度実施する。利用者のニーズの調査を行う。
自己評価	コーナー展示「南葵音楽文庫の貴重資料」(2階文化財情報コーナー)、ロビー展示「さわって学ぶ仏像の基礎知識」(エントランスホール)を、それぞれ通年展示した。
課題・改善案	臨機応変に対応できる展示として、資料の保全に留意しながら、館内小展示を行う。

④入館者の傾向

A. 入館者の動向(年齢層・地域・情報入手手段・満足度・感想意見等)を調査しているか。(17)

平成30年度目標	入館者の動向を把握する。アンケート回答率の増加(10~15%)をめざす。「感想・意見」欄の要望に、可能な限り対応し、改善点を公開できるようにする。
自己評価	全ての期間、アンケート調査を行い、9.3%の回答を得た。
課題・改善案	アンケートの内容とその後の経過を公開できるように、手法等を検討する。

4. 教育普及

博物館長による所見	3Dレプリカの展示・活用は好評であり、手軽にできる博物館教材として全国リードを維持すべきであろうが、将来的には科研費導入も含めて予算化の努力が必要である。学校教育や地域住民との連携は積極的に行われており、「けんぱく・こどもゼミ」も数年後に検証の機会を設けた上で進めるべきであろう。
評価部会による所見	学校教育との連携を深める努力が認められるが、さらなるニーズに応える必要がある。館の運営に必要な一部の業務に、一般ボランティアを導入することを検討すべきである。「災害の記憶」の調査と啓発活動は、引き続き他の地域へも拡大してほしい。「けんぱく・こどもゼミ」は2~3年実施しながら、今後の展開を検討することが求められる。

①学校・団体の利用

A. 学校・団体の利用回数、利用者数。(18)

平成30年度目標	年間合計60校、2,500人。
自己評価	年間合計60校、1,982人。
課題・改善案	展示クイズ以外に、学年・クラス単位で利用しやすい教材(ワークシート)の開発を検討する。様々な機会を利用して、学校の博物館利用に関わる要望をリサーチする。

B. 学校向けの適切な広報活動を行っているか。(19)

平成30年度目標	教員向けパンフレットを制作、配布する。様々な方法により、学校向けの広報活動を行う。学校からの要望を調査する。
自己評価	教員向けパンフを制作し、年度初めに県内・泉南地方の学校(559校)に発送した。また、校長会や社会科教育研究会等の場で、学校向け活動について広報を行った。
課題・改善案	教員研修の場等で、学校からの希望や実状を聴取しているが、当館から提示される様々な情報の受容のされ方を調査する必要がある。

② 講演会・博物館講座

A. 講演会・博物館講座の回数、参加者数。(20)

平成30年度目標	年間合計5回、300人。
自己評価	年間合計7回、562人。
課題・改善案	展覧会に関する行事について広報手法等を検討する。

B. 参加者が満足しているか。(21)

平成30年度目標	利用者の満足度を測定する(アンケート調査を行う)。
自己評価	春季特別展の講演会・講座については、アンケート調査を実施した。おおむね90%以上が「大変良かった」「よかった」という評価であった。秋季特別展は参加者が多く、アンケート調査をほとんど実施することができなかった。
課題・改善案	引き続きアンケート調査を継続し、参加者の要望・意見を把握することにつとめる。

③ 展示解説・体験学習・ワークショップ・見学会・関連行事等

A. 行事の回数、参加者数。効果的な事業を実施しているか。(22)

平成30年度目標	年間合計展示解説37回(600人)・体験学習2回(50人)・見学会1回(20人)・現地学習会2回(180人)。効果的な告知を行う。通常年度の行事に加えて、歴史・文化財に興味を持つ児童・生徒を募集して、「けんぱく・こどもゼミ」を実施する。
自己評価	年間合計展示解説33回(1,026人)・体験学習2回(51人)・見学会3回(72人)・現地学習会2回(143人)。「けんぱく・こどもゼミ」(7回)を開講し、7人の小中学生が参加した。
課題・改善案	当館の収蔵資料の傾向や施設的な制約はあるが、効果的な参加・体験型イベントについて研究する必要がある。

B. 参加者が満足しているか。(23)

平成30年度目標	利用者の満足度を測定する(アンケート調査を行う)。
自己評価	現地見学会・現地学習会についてはアンケート調査を行うことができた。いずれも、85%以上の満足度という評価を得た。
課題・改善案	引き続きアンケート調査を継続し、参加者の要望・意見を把握することにつとめる。

④県民との協業

A. ボランティア制度を導入しているか。(24)

平成30年度目標	現行のボランティア制度をより充実させる。一般向けのメニュー開発・募集方法等を検討する。教育普及活動における教員OBなどの活用について検討する。
自己評価	和歌山大学学生によるミュージアム・ボランティアは、従来通り実施し、「さわれるレプリカ」着色や音声ガイドナレーションといった、館にとって必要な業務に十分な成果をもたらした。
課題・改善案	引き続き、博物館にとっても有益な一般ボランティアの導入について研究する必要がある。

B. 友の会・支援組織をつくっているか。(25)

平成30年度目標	友の会などの支援組織との協力関係を維持する。
自己評価	従来通り、博物館友の会と相互協力関係を維持し、七夕まつり・バス旅行などの行事に協力した(会員数134名)。
課題・改善案	引き続き、博物館友の会との相互協力関係の可能性について検討する。

C. 地域・学校・他機関等と連携した事業をおこなっているか。(26)

平成30年度目標	文化財の防災・防犯、ユニバーサルデザイン等を主眼において、地域・学校と連携した事業を行う。県立博物館施設や市内博物館施設との連携事業に、引き続き協力する。出前授業・講演会など、当館の専門性を活かした依頼については、他の業務に差し支えない範囲で協力する。
自己評価	文化庁補助金事業として、地域に眠る「災害の記憶」と文化遺産の発掘・共有・継承する事業、文化遺産の複製を活用した防犯対策事業・さわれる資料による博物館のユニバーサルデザイン化事業を実施した。和歌山県博物館施設等災害対策連絡会議の中心的なメンバーとして運営を行い、また和歌山市内博物館施設等の入館料相互割引制度を引き続き実施した。エキスパート職員派遣(出前授業)は5校。県立博物館等施設の合同企画(「たんけん!近代美術館・博物館」・「夏休み5館スタンプラリー」・「風土記まつり」)は例年通り実施・参加した。
課題・改善案	引き続き、文化財の防災・防犯、ユニバーサルデザイン等を主眼において、地域・学校と連携した事業を行う。

D. 観光政策に対応するような方策を行っているか。(27)

平成30年度目標	市内類縁施設5館の相互案内・割引サービスを引き続き行う。周知の方法を検討する。
自己評価	前年度に引き続き、和歌山市内博物館施設等の入館料相互割引制度を実施した。年間カレンダーや特別展の案内については、観光案内所・県内ホテル・道の駅・主要都市の観光業者へ発送した(205件)。
課題・改善案	和歌山城観光との連携の可能性について、観光業者・県市観光部局と協議する。

⑤人材育成

A. 学芸員実習・インターンシップ・教員研修などを受け入れているか。(28)

平成30年度目標	学芸員実習・中高生のインターンシップ・教員研修などを受け入れる。
----------	----------------------------------

自己評価	8月上旬に原則県内出身者を中心にして学芸員実習を実施した(5名)。中高生のインターンシップは7校14名。中堅教諭等資質向上研修(選択研修)を2回実施した(23名)。初めての試みとして、歴史や文化財にとくに関心を持つ小中学生を対象に、やや専門的な講義「けんぱく・こどもゼミ」を7回連続で実施した(7名)。
課題・改善案	担当者を決めて、従来通り積極的に受け入れる。

5. 広報・情報発信

博物館長による所見	ポスター、チラシは県内外の必要な教育施設や文化施設に送付し、またメディアの利用をさらに拡大する必要がある。HPの利用は今後とも増加すると思われるので、定期的な更新と一層の内容充実を。広報・情報発信のための予算が必要である。
評価部会による所見	ホームページによる広報が一定の効果をあげている点は評価できるが、より効果をあげるために適度なデザインの更新が必要である。あわせて、リアルタイムの情報を伝えるため、SNSの機能や動画配信などをより活発に行うべき。博物館のソフトなイメージ作りのために、「ゆるキャラ」の公募という手法も必要なのではないか。

①県民への直接的情報提供

A. 問い合わせ・質問(電話・来館等)へ対応しているか。(29)

平成30年度目標	問い合わせ・質問(電話・来館等)に対応する。件数を記録するとともに、重要なものについては、記録を作成し情報の共有化をはかる。
自己評価	和歌山県の文化財に関する照会への対応678件。
課題・改善案	重要な照会事項については、学芸員の間では情報共有されているが、その記録蓄積のシステム化が必要である。

②メディアへの情報発信

A. 掲載件数。メディアへの広報・情報活動は行っているか。(30)

平成30年度目標	メディアへの広報・情報活動を、より積極的に行い、その実績を記録する。
自己評価	報道機関への資料提供10回。新聞(一般紙)への掲載件数87回。テレビ・ラジオ番組への出演7回。「県民の友」掲載12回。
課題・改善案	メディアに対して、より積極的な情報提供につとめる。

③ホームページによる広報

A. アクセス件数・更新回数。コンテンツ・デザイン等を随時工夫しているか。(31)

平成30年度目標	年間閲覧回数:46,000カウント、トップページ更新回数:8回。コンテンツ・デザイン等の改良(外国語対応を含む)に関する改良作業に着手する。
自己評価	年間閲覧回数:73,074カウント、トップページ更新回数8回。ブログ形式アップ17回、ツイッター形式アップ53回。「利用案内」の部分に英語版・中国語版・韓国語版を追加した。
課題・改善案	さらに閲覧しやすくするために、トップページのデザイン更新が必要である。また携帯端末用のデザインも整備する必要がある。

④印刷物の制作

A. ポスター・チラシ・館だより・カレンダー等による情報提供・広報活動は行っているか。(32)

平成30年度目標	ポスター・チラシ・館だより・カレンダー等による情報提供・広報活動を行う。送付先・送付枚数等を随時検討する。
自己評価	2本の特別展についてはそれぞれポスター・ちらしを制作、夏休み企画展についてはちらしを制作して発送した。また館だより・カレンダーは、年度初めに間に合うように制作・発送した。発送先は特別展関係者の数で変化するが、おおむね2,700箇所程度。
課題・改善案	企画の内容・協力関係によって、より効果的な配布先・配布枚数等の検討を随時検討する。

⑤広報手段の検討

A. 多様な広報手段を利用しているか。(33)

平成30年度目標	広告会社等に委託するなどして、専門的な広報手段を活用する。利用可能な広報手段について、研究する。関西圏に向けての広報手段について、新たな方法を研究する。
----------	--

自己評価	「西行展」については、JR関係の広報会社に依頼して、関西圏・首都圏の主要駅にデジタルサイネージ・ポスター掲示などの手法で広報を行った。
課題・改善案	ポスター・ちらし、新聞報道、インターネット以外の手法についても、研究する余地がある。広報のための予算の重要性について、アピールする必要がある。

6. 組織と運営

博物館長による所見	学芸員が必要な研修に参加できるように時間的な余裕を確保する必要がある、そのためにも手薄な分野の人員確保が望まれる。総務課と学芸課が一体となり運営されていること、および学芸各員の自主性が重んじられているところは大いに評価できる。常設展示の考古部門の更新・充実が望まれる。
評価部会による所見	学芸員の不足しているジャンル、とくに資料収集や展示活動において不可欠な近現代分野、教育普及マネジメント分野への学芸員の配置が求められる。また、業務を補完すべく、委託研究員(アドバイザー)や共同研究員の制度もより活用すべきであろう。

①組織・人員

A. 危機管理・防災体制についてマニュアルを作成、実地訓練等を行っているか。(34)

平成30年度目標	危機管理・防災体制についてマニュアルを作成し、実地訓練等を行う。
自己評価	防災マニュアルは整備されている。火災時の避難誘導訓練を行った。
課題・改善案	来館者入館時の訓練を実施できるか検討する。

B. 館内外の研修に対して、職員が参加できる体制がとられているか。研修参加の実績。(35)

平成30年度目標	館内外の研修に対して、職員が参加する。学芸員にとって必要な研修については、長期的な受講計をたてる。
自己評価	文化庁企画展示セミナー(1年目)に学芸員1名が参加。
課題・改善案	保存科学担当学芸員研修(東京文化財研究所)への既受講者数を増やす。

②利用者数

A. 当該年度の利用者数は何人か。(36)

平成30年度目標	37,000人。前年度より増加することを最低限の目標とする。目標値設定のための根拠を整理する。年度中の状況に対応するための方策を、柔軟に立てることができるようにする。
自己評価	入館者数は36,452人。年度前半の展示が苦戦したのに対して、「西行展」以降、後半の展示はすべて前年度を上まわった。目標値には達しなかったが、新館開館後では第5位の数字であった。
課題・改善案	翌年度の目標設定だけでなく、当面の中期的な目標と達成までの目標期間を設定する必要がある。

③情報公開

A. 使命、目標、計画などの方針を公開しているか。(37)

平成30年度目標	使命、目標、計画などの方針を公開する(ホームページ等で公開する)。予算編成作業の前に、博物館協議会で意見を聴取する。
自己評価	「博物館の使命」をホームページで公開している。
課題・改善案	年度上半期には、その年度の目標(概要)を公開する必要がある。

B. 実績の検討や評価を行い、その結果を公開しているか。(38)

平成30年度目標	博物館協議会及び博物館評価部会において、前年度の実績の検討や評価を行い、その結果を公開する(ホームページ・年報等で公開する)。博物館評価手法の妥当性について、中長期的な観点も視野に入れながら検討する。
自己評価	第1回の博物館協議会及び博物館評価部会において、前年度の実績の検討・評価を行い、その結果をホームページと年報で公開した。
課題・改善案	ホームページでの公開の時期が、例年に比べてかなり遅れ、年度末になった。年度半ばごろには公開する必要がある。博物館評価の手法・フォーマット(点検表方式)については、一定の役割を果たしたと思われ、再検討・見直しの時期にさしかかっている。なお、人員や予算上の制約もあって、課題改善のための分析や実施のサイクルが十分に確立されていない点は根本的な問題である。

7. 施設・設備

博物館長による所見	ガラスの飛散防止などの工事は行われたが、対人および対列品を目的にした免震設備を総合的に考える必要がある。カビの発生防止は早めに対策を講じておくのがよい。
評価部会による所見	アンケート調査にみられる来館者の意見を、どのように館運営に反映させたのかを、何らかの形で表示することも必要なのではないかと。外国人来館者に必要な外国語表示は、QRコードを用いてスマホで閲覧できるようにする方法も考えられる。

①施設設備の維持管理

A. 日常的な点検の有無、改修保全の実施、安全衛生の管理が行われているか。(39)

平成30年度目標	日常的な点検、改修・保全の実施、安全衛生の管理を行う。
自己評価	館内の重要な設備(電気・空調・警備等)については、日常的に点検が行われている。また、来館者が利用する部分については、日常的に清掃が施されている。
課題・改善案	バックヤード部分で清掃が行き届いていない部分の一部みられるため、定期的に清掃が行われるような管理体制の整備が必要である。

B. 中長期修繕計画を有し、実施しているか。(40)

平成30年度目標	長期修繕計画が実施に移せるよう、最新の状況・基準についての調査を行う。大規模な地震に対する安全性について再確認し、必要な措置を講ずる。空調機熱交換装置の更新作業を行う。展示室LED照明化の基本設計を行う。
自己評価	中長期的に課題であった、館全体の空調熱交換装置の更新を行った。また展示室におけるLED照明転換のための、基本設計を近代美術館とともに策定した。
課題・改善案	展示室LED照明の改修工事については、実施業者等と協議を重ねながら、資料の安全性と観覧者の快適性をふまえて、慎重に実施する。

②アメニティーの向上

A. バリアフリー・ユニバーサルデザイン等の対応が取られているか。利用者への接遇の向上がみられたか。(41)

平成30年度目標	「さわれるレプリカ」作りを継続する。館内表示や情報機器類の外国語表示の充実を図る。
自己評価	「お身代わり仏像」として防犯対策の意義もある、「さわれるレプリカ」作りを継続した。一部特別展・企画展のキャプションに、英語表示を併記した。来館者の意見や、館周辺のコインパーキングの状況をふまえて、駐車場料金の改定を行った。
課題・改善案	館内表示・展示解説等については、英語だけでなく中国語・韓国語等の表示も加えていく必要がある。

8. 財源

博物館長による所見	現予算を下回らないよう努力が必要である。現在助成を受けている文化庁補助金のほかに、国の科研費・民間の助成金を有効に活用する。
評価部会による所見	より多くの人の目に調査研究、展示成果をふれてもらうために、より広範囲に図録販売ができるよう、HPから容易に購入する方法など、手法や販路の検討が必要であろう。科研費を含む、補助金・助成金の獲得につとめられたい。

①予算の確保

A. 入館料収入・その他の収入の確保について、当初計画に対する実際の収入達成率。(42)

平成30年度目標	歳入8,898千円・県一般財源67,081千円(当初見込)。当初見込額に達するようにつとめるとともに、必要な財源を確保する。
自己評価	歳入6,923千円(77.8%)・県一般財源65,036千円(97.0%)(決算額)。
課題・改善案	博物館の使命を果たすために必要な財源の確保につとめるほか、入館料だけでなく、図録売上増加や音声ガイドの利用促進にも努力する。

B. 外部助成金等を獲得しているか。(43)

平成30年度目標	引き続き、文化庁補助金等の外部助成金を獲得する。
自己評価	文化庁補助金補助額6,053千円(決算額)。
課題・改善案	科学研究費補助金の獲得や共同研究への参加による外部資金調達の手法を研究する。